

13 分科会 道徳

1、レポート名 『かぼちゃのつる』と『子どもの権利条約』

2、レポーター 平川美和（道徳組）

3、レポートの概要

「わがママをいわないで」がねらいの良くない教材として有名

黙って学習すると、忸怩することを身に着ける授業になってしまう。実際に育て、かぼちゃが、他学年の畑や、通路に伸び、大好きな公務補さんに「草刈りしてる道にあったら、切って良いか」と言われる体験を通して、せっかく育てたかぼちゃをなんてことしてくれるんだという気持ちとともに、じゃあ、どうしたら良いか、迷惑はどうかと、考えるように流した。学びを綴るを繰り返した。

まず、自分がかぼちゃの立場に重ねて考えた子。犬や蜂のように周りの人に厳しすぎる言い方を反省する子。子どもの権利条約を学び、かぼちゃの命が守られなかったことへの抗議を感じた子。かぼちゃが誰にも守られていなかったことを痛切に感じ取れた子。教科書が求めた忸怩「わがママはだめ」をはるかに越えた深い学びが感じ取れた。

子どもたちは、作文で自分の考えを綴り、学芸会では劇として発表をしていった。

4、分科会の討議の内容

○道徳の教材を劇化した時の教師の思いと子どもの思いのバランスは？

⇒ももとの劇の台本から子どもの姿で編集した。

○道徳を1時間で終わらないレポート。作文がこんなに書けるんだという感想

⇒年間を通して作文を指導。あのねからお話をする活動から、絵を描くあのね、そして、絵と文のあのねをというふうに活動。

○道徳が評価される教科としての交流内容

- ・教科書に載っているからという思考が狭めてしまう問題点。
- ・少ない意見の考えをどうくみ取るかという悩み。
- ・正解のない道徳を正解のないままに終わらせるにはという意見。

○道徳と子どもの権利条約

- ・友だちの演技の事も劇の練習を通して考える子がいた。
- ・かぼちゃを自分で育てた経験も実感した経験となった。
- ・それぞれの権利があって、じゃどうする？と困ったと問い合うのがいいのでは。

○道徳的価値で、揺さぶるには

- ・「わがママをしないで」って変だねというふうに言ってしまう投げかけもありでは。
- ・教科書がいつも正しいとはならないと話もできるのでは。

○対話としての校内研修

- ・議論ではない対話を通してよりよい答えを共有してみた実践であった。

5、共同研究者から

- ・道徳にならされている子ども。今回の実践では、子どもたちがどうとらえるかなというところを大切にしたい。教科書をどう使えたらいいかとらえたらいい。子ども達を一番知っている担任がこの教材をどう料理するか、子どもとの信頼関係を大切にする視点で実践するのがいい。